

IV 生活場面「心や体、命を大切に」

【1】第4次大阪府障がい者計画(後期計画)における整理

<めざすべき姿>

障がい者が必要な医療や相談をいつでも受けることができる

【今後の主な課題】

- 障がい者が身近な地域で過度な負担なく安心して医療サービス受けることができる環境の整備
- 医療依存度の高い重症心身障がい児者等への支援の充実
- 高次脳機能障がい者支援の充実

【個別分野ごとの施策の方向性】

- (1) 必要な健康・医療サービスを受ける
- ① 医療サービスの充実
 - ② 医療依存度の高い重症心身障がい児者等への支援の充実
 - ③ 二次障がいへの対応
- (2) (医学・社会的)リハビリテーションを受ける
- (3) 悩みについて相談する

【2】平成28年度障がい者の生活ニーズ実態調査の分析

表1 「リハビリ・生活訓練等について」×「受けている(受きたい)リハビリ等の内容」

	身体機能を回復、維持、痛みを和らげるための訓練	言語の訓練	就業のための職業リハビリテーション	自立生活のための日常生活・社会生活に関する体験	手話や点字などのコミュニケーション訓練	心理カウンセリング	その他	総計
リハビリテーションや生活訓練、カウンセリングを受けている	520	80	23	94	6	127	71	921
リハビリテーションや生活訓練、カウンセリングが必要だが受けていない	144	57	42	113	13	72	14	455

表2 「リハビリ・生活訓練等について」×「通院(往診を含む)の回数」

	ほとんど毎日通院している	週に2回から3回程度	週に1回程度	月に2回から3回程度	月に1回程度	通院していない	入院している	総計
リハビリテーションや生活訓練、カウンセリングを受けている	30	126	98	263	359	80	27	983
リハビリテーションや生活訓練、カウンセリングが必要だが受けていない	6	29	28	129	242	144	9	587

表3 「リハビリ・生活訓練等について」×「外出時に困ることや不便に思うこと」

	道路に段差がある、信号や視覚障がい者誘導用ブロックがわかりにくい	建物の設備(階段、トイレ、エレベーター等)が不便	通行車両(自動車や自転車など)が危ない	公共交通機関(バス・電車など)が利用しにくい	移動支援サービス(ガイドヘルプ)が利用しにくい	困ったときに周囲の手助けがない(お願ひしにくい)	その他	特になし・ほとんど外出しないのでわからない	総計
リハビリ・生活訓練等を受けている	163	289	224	230	103	171	87	259	1526
リハビリテーションや生活訓練、カウンセリングが必要だが受けていない	68	109	164	130	101	182	72	136	962

表 4 「リハビリ・生活訓練等について」×「悩みや心配事を相談する人」

	家族	友達	ホームヘルパーや施設等の職員	学校の先生や職場の人	専門の相談機関や相談支援事業所	民生委員・児童委員	かかりつけの医師や看護師	その他	相談できる人がいない・わからない	総計
リハビリテーションや生活訓練、カウンセリングを受けている	371	37	58	14	19	2	53	40	80	674
リハビリテーションや生活訓練、カウンセリングが必要だが受けていない	263	37	32	9	6	0	19	31	95	492
リハビリテーションや生活訓練、カウンセリングを受ける必要がない	353	73	39	15	14	2	25	25	83	629
総計	987	147	129	38	39	4	97	96	258	1,795

表 5 「病院や福祉施設での差別やいやな経験」×「病院での診察時に困ることや不満なこと」

	通院の介助の確保が難しい	施設の構造や設備がバリアフリーになっていない	医師や看護師などに障がいへの理解がない	医師や看護師などの説明がよくわからない、コミュニケーションがとりにくい	入院を断られる	自宅での医療がうけにくい	医療費が高い	診察してもらえない病院が少ない、診察を断られる	その他	特に困ることはない・わからない	総計
いやな思いをしたことはない	47	26	42	94	13	17	110	54	88	598	1,089
いやな思いをしたことがある	59	16	100	104	26	8	54	82	96	167	712

<分析結果>

- ・「受けている(受きたい)リハビリ等の内容」の回答内容について、リハビリや生活訓練等を受けている人、必要だが受けていない人ともに、「身体機能を回復、維持、痛みを和らげるための訓練」「自立生活のための日常生活・社会生活に関する体験」「心理カウンセリング」が多い(表 1)。
- ・リハビリや生活訓練等を受けている人の約 90%が月に 1 回以上の通院をしているのに対し、リハビリや生活訓練等が必要だが受けていない人の、約 25%(144/587 人)が通院していないと回答している(表 2)。
- ・リハビリや生活訓練等が必要だが受けていない人が「外出時に困ることや不便に思うこと」で最も多かった回答は「困ったときに周囲の手助けがない(お願いしにくい)」であり、次いで「通行車両が危ない」、「公共交通機関が利用しにくい」であった。一方、リハビリや生活訓練を受けている人では、「建物の設備が不便」が最多で、次いで「通行車両が危ない」、「公共交通機関が利用しにくい」であった。また、どちらについても「移動支援サービスが利用しにくい」との回答が一定数あった(表 3)。
- ・リハビリや生活訓練等を受けている人は、そうでない人に比べて、「ホームヘルパーや施設等の職員」、「かかりつけの医師や看護師」に悩みや心配事を相談する人が多い(表 4)。
- ・病院や福祉施設で差別やいやな経験をしたことがないと回答した人のうち、約 45%(491/1089 人)が病院での診察時に困ることや不満なことがあると回答しており、そのうち約 39%(190/491 人)の人が「医師や看護師などに障がいへの理解がない」、「医師や看護師などの説明がよくわからない、コミュニケーションがとりにくい」、「診察してもらえない病院が少ない、診察を断られる」など病院での対応について回答している。また、病院や福祉施設で差別やいやな経験をしたことがあると回答した人が、病院での診察時に困ることや不満なこととしては、「医師や看護師などの説明がよくわからない、コミュニケーションがとりにくい」が最も多く、次いで「医師や看護師などに障がいへの理解がない」、「診察してもらえない病院が少ない、診察を断られる」となっており、同様に病院での対応に関する回答が多くなっている(表 5)。